

台湾における薬物資源の研究(第17報), 青石蛋について, 日本生薬学会第27年会, 1980. 9, 名古屋.

15) 難波恒雄, 経塚真砂, 服部征雄: 和漢薬によるウ蝕子防に関する研究(第1報), ウ蝕原性菌に対する和漢薬の抗菌作用, 日本生薬学会第27年会, 1980. 9, 名古屋.

16) 難波恒雄, 御影雅幸, 牛山つや子: 生薬の品質評価に関する基礎研究(第15報), 電子顕微鏡による生薬分析(3)黄連組織中のアルカロイドの分布, 日本生薬学会第27年会, 1980. 9, 名古屋.

17) 難波恒雄, 布目慎勇, 服部征雄: 和漢薬資源の開発(第1報), 魚胆について(1), 日本生薬学会第27年会, 1980. 9, 名古屋.

18) 難波恒雄, 西村 正, 日下まち子, 韓 学宣, 服部征雄, 小橋恭一: 腸内細菌対大黃成分一番藎苣之代謝, 世界中國醫薬學術大會, 1980. 10, 台北.

19) 菊池 徹, 門田重利, 末原 久, 難波恒雄: 一点廣の新トリテルペン, サイクロネルピロールおよびサイクロホモネルピロールの構造, 第23回天然有機化合物討論会, 1980. 10, 名古屋.

生 物 試 験

教 授 渡 辺 和 夫
助 授 渡 辺 裕 司
助 手 後 藤 義 明
文 部 技 官 萩 原 昌 樹

◆ 原 著

1) Watanabe K. and Hagiwara M. M.: Aggravating effect of serotonin on gastric ulceration induced by thermocautery under the healing process in mice. *Japan. J. Pharmacol.* **30**: 377-387, 1980.

2) 渡辺裕司, 渡辺和夫: 骨格筋緊張の中樞ドパミン作動性調節機構と和漢薬作用, とくに厚朴および甘草の作用, 和漢薬シンポジウム記録 **13**: 16-20, 1980.

3) Hagiwara M. M. and Watanabe K.: Possible involvement of vasoactive factors in serotonin-induced aggravation of thermocauterization ulcer in mice. *Experimental Ulcer* **7**: 165-166, 1980.

4) Goto Y. and Watanabe K.: Influence of GABA-related agents on water-immersion stress ulcers and gastric acid secretion in the rat, *Experimental Ulcer* **7**: 167-169, 1980.

◆ 抄 録

1) Watanabe H., Ikeda M. and Watanabe K.: Effects of isoquinoline derivatives on central dopaminergic mechanism: Behavioural and fluorescence histochemical studies in mice. *Japan. J. Pharmacol.* **30**: suppl. 70p, 1980.

2) Goto Y., Watanabe K. and Kikuma M.: Effect of beta-(p-chlorophenyl)- γ -aminobutyric acid (PCPGABA) on the rat gastric acid secretion: In comparison with phenylalanine derivatives related to C-terminal amino acid of gastrin. *Japan. J. Pharmacol.* **30**: suppl. 220p, 1980.

3) 後藤義明, 渡辺和夫: 迷走神経刺激によるラットの胃酸分泌に対する H_2 -Antagonist, Cimetidine の抑制効果, 日薬理誌. **76**(2): 52p, 1980.

◆ 学会報告

1) 後藤義明, 渡辺和夫, 菊岡美代子: ラット胃液分泌に及ぼす β -(p-クロロフェニル)- γ -アミノ酪酸の作用: ガストリンC末端化学構造との関連性, 第53回日本薬理学会総会, 1980. 3, 岐阜.

2) 渡辺裕司, 池田茂美子, 渡辺和夫: Isoquinoline 誘導体のドパミン作動性中枢機構に対する作用: 行動薬理的・蛍光組織化学的側面, 第53回日本薬理学会総会, 1980. 3, 岐阜.

3) 渡辺和夫, 渡辺裕司, 後藤義明: 漢薬厚朴の中樞作用の薬理. 日本薬学会第100年会, 1980. 4, 東京.

4) 後藤義明, 渡辺和夫: 迷走神経性胃液分泌調節機構と薬物作用, 日本薬学会第100年会, 1980. 4, 東京.

5) 後藤義明, 渡辺和夫, 萩原昌樹: ラットの神経性胃液分泌反応のプロスタグランジンによる抑制, 日本薬学会第100年会, 1980. 4, 東京.

6) 渡辺和夫, 渡辺裕司, 後藤義明, 金岡聖子: マウス摘出胃の迷走神経刺激による胃酸分泌反応とこれに対するシメチジン, compound 48/80の抑制効果, 日本薬学会第100年会, 1980. 4, 東京.

7) 後藤義明, 渡辺和夫, 萩原昌樹: プロスタグランジンのラット胃液分泌抑制作用に及ぼすセロトニン関連薬物の影響, 第31回日本薬理学会北部会, 1980. 8, 旭川.

8) 渡辺和夫, 後藤義明, 原 信行, 金岡聖子: 実験的ストレス潰瘍の神経性要因と厚朴の抗潰瘍作用, 第14回和漢薬シンポジウム, 1980. 8, 富山.

9) Goto Y. and Watanabe K.: Inhibitory mechanism of calcitonin on vagally induced gas-

tric acid secretion in the rat in relation to its antiulcer activity, Fourth International Conference for Experimental Ulcer, 1980. 10, Tokyo.

10) Watanabe K., Watanabe H., Goto Y. and Hara N.: Continuous measurement of gastric bleeding in the rat loaded with the restraint and water-immersion stress: A new method for the assay of drug action on gastric mucosal defensive mechanisms. Fourth International Conference for Experimental Ulcer, 1980. 10, Tokyo.

11) 渡辺和夫, 原 信行: 胃出血連続測定による胃粘膜防禦機構の研究—諸種薬物の作用および副腎摘除の影響, 日本薬学会北陸支部第51回例会, 1980. 11, 金沢.

12) 後藤義明, 渡辺和夫: セロトニン潰瘍の発生機序に関する研究: 抗潰瘍薬の効果並びに胃血流の変化, 第8回実験潰瘍懇話会, 1980. 12, 広島.

13) 萩原昌樹, 渡辺和夫: 抗セロトニン薬によるインドメサシン潰瘍の幽門前庭部損傷増悪と胃酸分泌亢進, 第8回実験潰瘍懇話会, 1980. 12, 広島.

臨 床 利 用

教 授	大 浦 彦 吉
助 教 授	日 合 奨
助 手	横 澤 隆 子
助 手	長 澤 哲 郎

◆ 原 著

1) 横澤隆子, 長澤哲郎, 大浦彦吉, 中川 眸, 米原久美子: 血清総たん白, アルブミンレベルに及ぼす摂取たん白質の影響について, 栄養と食糧 33(1): 9-14, 1980.

2) 横澤隆子, 北原浪子, 大浦彦吉: ピルビン酸キナーゼ活性に対する食餌環境の影響について, 日本農芸化学会誌 54(3): 181-185, 1980.

3) 渋谷眞也, 長澤哲郎, 横澤隆子, 大浦彦吉: 大黃の尿素窒素代謝ならびにアミノ酸代謝に及ぼす影響, 薬学雑誌 100(4): 434-442, 1980.

4) Nagasawa T., Shibutani S., Oura H., Shoyama Y., and Nishioka I.: Effect of Extract from Rhei Rhizoma on Urea-nitrogen Concentration in Rat Serum, Chem. Pharm. Bull. 28(6): 1736-1739, 1980.

5) Nagasawa T., Yokozawa T., Nishino Y., and Oura H.: Application of High-performance Liquid Chromatography to the Isolation of

Ginsenoside-Rb₁, -Rb₂, -Rc, -Rd, -Re, and -Rg₁ from Ginseng Saponins, Chem. Pharm. Bull. 28(7): 2059-2064, 1980.

6) 長澤哲郎, 横澤隆子, 西野由絵, 大浦彦吉: 高速液体クロマトグラフィーによる薬用人参サポニンの大量迅速分離法について, Proc. Sympo. WAKAN-YAKU 13: 9-15, 1980.

7) Kida K., Nishino T., Yokozawa T., Nagai K., Matsuda H., and Nakagawa H.: The Circadian Change of Gluconeogenesis in the Liver *In Vivo* in Fed Rats, J. Biochem. 88(4): 1009-1013, 1980.

8) Nagasawa T., Choi J. H., Nishino Y., and Oura H.: Application of High-performance Liquid Chromatography to the Isolation of Ginsenoside-Rf, -Rg₂, and -Rh₁ from a Crude Saponin Mixture of Ginseng, Chem. Pharm. Bull. 28(12): 3701-3707, 1980.

◆ その 他

1) 日合 奨: 人参サポニンと下垂体副腎皮質系, 現代東洋医学 1(2): 80-81, 1980.

◆ 学会報告

1) 大浦彦吉: 東洋薬物, その生理活性について—薬用人参サポニンの各種代謝作用—, 日本薬学会第100年会, 1980. 4, 東京.

2) 横山弘臣, 日合 奨, 大浦彦吉, 林 輝明: 数種生薬の総サポニンのラット血漿コルチコステロン値に及ぼす作用, 日本薬学会第100年会, 1980. 4, 東京.

3) 日合 奨, 横山弘臣, 大浦彦吉: サイコサポニンの下垂体副腎皮質系への作用, 日本薬学会第100年会, 1980. 4, 東京.

4) 渋谷眞也, 長澤哲郎, 大浦彦吉, 野中源一郎, 西岡五夫: 和漢薬のBUN低下作用成分の研究(その2)芍薬からの活性成分の検索, 日本薬学会第100年会, 1980. 4, 東京.

5) 長澤哲郎, 西野由絵, 崔 鎮浩, 大浦彦吉: 薬用人参サポニンの高速液体クロマトグラフィーによる分離, 日本薬学会第100年会, 1980. 4, 東京.

6) 横澤隆子, 大浦彦吉, 中川 眸: 尿酸レベルに対する食餌性プリンの影響について, 日本栄養食糧学会総会, 1980. 8, 札幌.

7) 大浦彦吉, 長澤哲郎, 渋谷眞也, 横澤隆子, 西岡五夫, 野中源一郎: 和漢薬と窒素代謝, 第14回和漢薬シンポジウム, 1980. 8, 富山.

8) 日合 奨, 横山弘臣, 大浦彦吉: サイコサポニンの副腎皮質ホルモン分泌への作用, 第14回和漢